

Web 2.0 and Semantic Web

株式会社はてな 伊藤 直也
<http://www.hatena.ne.jp/>

What is Web 2.0?

- Next Generation Web
 - The Web as Platform
 - Remix / データ重要
 - Services, not packaged software

- これまでうまくいったものからの共通項
 - Google, Amazon, Flickr, del.icio.us, digg
 - ベスト・プラクティス

- Buzz Word?

Web 2.0 の産物

- RSS / Atom ... Lightweight XML
- Ajax
- Web as Platform
- Remixable Web
- RESTへの回帰
- microformats
- Folksonomy
- Permalink



©2006 株式会社はてな 本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます

Web 2.0的アプローチの特徴

- 仕様、メタデータの用途に確実なインセンティブを設けた上で活動する。
"ボトムアップ的アプローチ"
 - Amazon Web Services
 - RSS と blog
 - AtomPP と blog
 - A9.com と OpenSearch (RSS)
- Lightweight and Simple
 - 頂上を目指さずに、できるところから
 - microformats / RSS
 - not megaformats but simple, open data formats
- オープン・スタンダード
 - 実装、コミュニティの合意による標準
 - microformats / TrackBack



©2006 株式会社はてな 本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます

Web 2.0的アプローチの利点

- 比較的実装が優先される
- 実装に対するモチベーションの創出
 - 確実に"役に立つ"
 - マーケティングの考え方
 - いかにかそれを使ってもらうか、普及させるか。
- 実装を伴うので理解しやすい、普及しやすい。



©2006 株式会社はてな 本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます

Web 2.0的アプローチの欠点

- 実装優先の結果による仕様の曖昧さ
 - RSS 1.0 / RSS 2.0 / Atom Feed...
 - TrackBackスパム
- 普及してしまった仕様の修正、回収の難しさ
 - RSS / TrackBack / Atom 0.3
- 厳密さか、実装かの選択
 - Parse できないフィードをどう扱うか
 - RSS 1.0 と RDF



©2006 株式会社はてな 本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます

Semantic Web と Web 2.0

- 目指す方向は似ている
 - トップダウンアプローチへのアンチテーゼも若干含まれるものの、相反する話は少ない
 - microformats / RSS / Permalink / REST
- 今後 ... 相互理解が求められる
 - <http://www.kanzaki.com/memo/2006/01/06-1>
 - Web 2.0アプローチを生かしたセマンティック・ウェブの形成?
 - SPARQL (<http://www.kanzaki.com/memo/2006/01/08-1>)



©2006 株式会社はてな 本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます

参考: セマンティック・ウェブ、あるいはルーズさを生かした構造

- 神崎氏による Tim Falcorner の主張の紹介記事 (<http://www.kanzaki.com/memo/2006/01/06-1>)

セマンティック・ウェブについては、手の込んだ三段論法だとか、メタデータを標準化/正規化(normalize)、中央集権化してアプリケーション処理しやすくする一方でウェブの自由度を失うもの、といった批判があるが、本来は逆で、セマンティック・ウェブのアプローチは極めて「ルーズな」もの。RDFやOWLのいいところは、全然互換性のないデータをうまくつなぎ合わせて、構造を与えられるという働きにある。

話がややこしくなったのは、セマンティック・ウェブの研究には特定分野のオントロジーというテーマが多く、外部から見たらすごく厳密で難しいものに思えたということがあるかも知れない。標準化団体の形式論理信奉者がいろいろ説明しても、あまりうまく理解されないのだろう。大切なポイントは、「ルーズさを生かしつつ構造を与える」(add structure without losing looseness)というところなんだが。

"Web 2.0"とか"folksonomies"といったものもてはやされているのは、知ったかぶり屋さん達にも分かりやすいからだ。RDFやOWLだって狙いは同じなんだが、これらはどうもアカデミズムや大規模ソフトウェアという分野の専用だと思われてしまっているらしい。Web 2.0をかついでいる人々も、いずれセマンティック・ウェブが以前直面した壁(その結果、RDF/OWLというアプローチをとった)にぶつかるだろう。

「何てこった、このメタデータを活用するのがこんなややこしいなんて。」そして、セマンティック・ウェブは三段論法なんかじゃなくて、「縫い合わせ」だってことを理解するだろう。しかし、それでは遅すぎるんだ。取っつきやすい、半端なセミ・スタンダードを使って、結局何にもならないという事態にならないうちに、セマンティック・ウェブ技術の利点を理解してもらわなくては。



©2006 株式会社はてな 本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます